

四国遍路道研究会報告（第3回）

四国遍路みちにおける、「へんろ転がし」の工学的研究

四国遍路みち研究会

・勝浦町生名～第20番鶴林寺～水井橋の現地調査報告

（第9回現地調査 H22.12.11）

年の瀬も押し迫った平成22年12月11日、天候は曇りがちでもそう寒くない。第20番鶴林寺への順路としての登り口である勝浦町生名（標高約30m）に着いた。早速生名地域の集会所前の空き地に車を置かせてもらい、9時45分いざ出発、当該ルートは平成22年8月に国史跡「阿波遍路道・鶴林寺道」として指定されており、道案内類も十分に整備されている。

当該遍路道はミカン畑の中を歩いており集荷用軽トラックが走りやすいようにコンクリート



ミカン畑の中の遍路道

で凸凹をつけた形で舗装されている。舗装区間は勾配的にもそんなにきつくなく、登る途中で後ろを振り返れば勝浦川がゆっくり西から東に流れている。沿道のミカンもまだまだ鈴なりで残っており、やはりミカン王国は暖かい地域であると十分に感じられた。

登り始めて約30分、コンクリート舗装が途切れ出すと急な坂道となる。杵を設けた奥行きのある階段になってお

りこれが102段と意外と長い、これが終わる頃十丁の丁石と水呑大師と水飲み場があり、ここから石の階段が続く、この一連約3kmが「へんろ転がし」区間と認識。階段を過ぎると杉林の中をうねうねと歩く、道は可成り整備されている。途中車道に出る。安全確認のもと、檜・山桃の大木等広葉樹林を歩く、今回の最終地点である阿南市大井を含む那賀川の大きな屈曲が一望できるビュー

トで凸凹をつけた形で舗装されている。舗装区間は勾配的にもそんなにきつくなく、登る途中で後ろを振り返れば勝浦川がゆっくり西から東に流れている。沿道のミカンもまだまだ鈴なりで残っており、やはりミカン王国は暖かい地域であると十分に感じられた。

登り始めて約30分、コンクリート舗装が途切れ出すと急な坂道となる。杵を設けた奥行きのある階段になってお



石畳の参道



山門 鶴林寺

ーポイントに出る、ここでコーヒータ
イム。

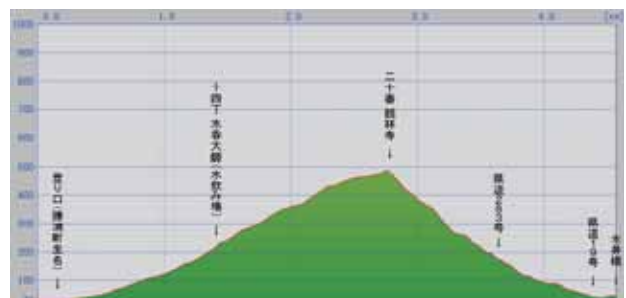
再度、車道に出ての後は石畳の参道
を山門へ向かい12時頃に鶴林寺（標高
500m）に着く、一通りの参拝を済ま
せ、昼食は先延ばしし那賀川へ下っ
て行く、この坂道は整備されてなく非
常に厳しい、鶴林寺境内の途中から下
っていくわけだが、早速「へんろ転が
し」「逆打ちでこちらから登ってこな
くて良かった」と顔を見渡すことしき

り、下っても下ってもランチ向きの広場に出くわさず、坂道の岩場に腰を降ろしての昼食と
なった。

都合2kmほどの高低差約460mの下り坂で、特にきついところは35%以上の勾配があっ
た。途中県道283号を横切り小学校跡の前を通り集落の中を抜け、県道19号から大井の水井
橋（標高45m）に14時15分に到着した。



那賀川を一望(ビューポイント)



二十番 鶴林寺 縦断図